

トアルヘシ之ヲ要スルニ帝國ニ在留セル露西亞帝國臣民ニ對シテハ帝國ノ利益ト抵觸セサル
限ニ於テ可成丈完全ノ保護ヲ與ヘント欲スルナリ宜ク此ノ意ヲ體シテ彼等ヲ處遇シ併テ帝國
臣民ヲシテ誤解ナカラシムル様注意スヘシ

明治三十七年二月十日

内務大臣 伯爵 桂 太 郎

明治二十七八年戰役ニ於テハ、特ニ勅令(明治三十七年勅令第三百三十七號)ヲ發シテ、帝國内ニ在住スル清國臣民ノ保
護ニ關スル事項ヲ規定シ、清國臣民ヲシテ其ノ住所職業氏名ノ登錄ヲ受ケシメ、且戰、爭中清國臣民
ノ帝國版圖内ニ入ルニ就テハ内務大臣ノ特許ヲ受ケシムル等ノ手段ヲ取リタリ、今回ノ戰役ニ於
テモ、初メ内務省當局者ハ勅令ヲ以テ帝國在留露國臣民ノ保護ニ關スル規定ヲ設ケントスルノ希
望ナリシモ、内閣ニ於ル協議ノ結果特ニ勅令ノ形式ヲ要セサルコトニ決シ、内務大臣ノ訓令ヲ以テ
規定スルコト、ナリタルモノナリ、

尙桂内務大臣ハ二月十九日神佛各教宗派管長ニ訓令スルニ當リ、國交ハ既ニ絶エタリト雖モ、其ノ
臣民ニ對シテハ固ヨリ秋毫モ微意アルヘキニアラス、殊ニ宗教ニ對シテハ其ノ教派如何ヲ問ハス、
平等一視更ニ平素ニ淪ハルコトアルナシ、是レ洵ニ布教傳道ニ從事スル者ノ最深ク其ノ意ヲ致ス
ヘキ所ナリトス、管長タルモノ宜シク今ニ及ンテ派内ノ教師ニ懇諭シ、苟モ事體ヲ誤ルコトナキ様
篤ク留意セシムヘキ旨ヲ訓示シ、又久保田文部大臣ハ、二月十日教育者カ戰時ニ於テ探ルヘキ態度
ヲ訓令スルニ際シ、今ヤ露國ト事ヲ構フルモ、固ト是レ平和ヲ永遠ニ克復スルカ爲メナレハ、學生生
徒カ客氣ニ驅ラレ、露國臣民ニ對シテ嘲罵ヲ逞クシ、延テ他ノ外國民ニマテ惡感ヲ懷カシムルカ如
コトナカラシムルハ、子女ノ教育上最注意ヲ要スル所ナル旨ヲ戒告シタリ、
而テ開戦後我カ國ニ殘留セル露國臣民ハ開戦前ト全ク同一ノ待遇ヲ受ケ、函館在留ノデンビー外

四名カ同地ノ戒嚴地トナリタル結果、同地ヨリ退去ヲ命セラレタル外何等ノ檢束等ヲ受クルコト
ナカリキ、特ニニコライ主教ハ歸國セス、其ノ保護ヲ佛國公使ニ託シ我カ政府亦責任ヲ負ヒテ宣教
師タル同主教ヲ保護スヘキ旨、正式ノ承諾ヲ佛國公使ニ與ヘタリ、

第四節 天主教徒ノ保護

三十七年二月九日佛國駐露羅馬法皇使節ヨリ、日露兩國開戦ノ場合ニハ、天主教徒ノ生命、財産竝ニ
其ノ教會堂等ハ、日本政府ニ於テ安全ニ保護セラレ度出來得ヘクハ右ノ爲メ特ニ其ノ向ニ訓令ヲ
發セラル、様致度旨、本野公使ヲ經テ帝國政府ニ電請シ來レリ、因テ小村外務大臣ハ翌十日附ヲ以
テ、日本政府ノ權力ノ及フ限リハ、天主教徒竝ニ教會堂等ニ適當ノ保護ヲ加フヘキコトヲ、法皇使節
ニ確保スヘキ旨、本野公使ニ電訓シタリ、

右ニ關シ其ノ後維納府、ボリチ、シニエ、コルレス、ボン、デンツ、新聞ノ記スル所ニ依レハ、曰ク羅馬法皇
カ天主教宣教師ノ保護ニ關シ、其ノ巴里駐節使節ヲ經テ、日本政府ニ懇請シタルハ、今ヤ世上ニ知レ
互リタル事實ナリ、法皇政府ハ此ノ請求ヲ佛國政府ニ爲サスシテ、直接日本政府ニ照會シタルハ、頗
ル政治界ノ注意ヲ惹起シタル所トス、蓋日本、韓國及ヒ滿洲ニ於ル宣教師ハ、殆ト舉ケテ佛國民ニ屬
シ、又日本ニ於ル天主教徒ハ約九萬人ナルモ、韓國及ヒ滿洲ニ於ル同教徒ハ八萬四千人ナリトス、

第二篇 國際法關係ノ法令

第一章 戰時ノ初期ニ關スル件

元來交戰狀態ハ、戰爭ノ意思ヲ相手方ニ通告シタル時ヨリ、又實際ノ戰行爲カ右通告ノ時ニ先タ
ツトキハ、其ノ戰行爲ノアリタル時ヨリ成立スルモノナルコトハ、國際慣例上殆ト一般ニ承認セ
ラレタル所ナリ、日清戰役ノ際ニ於テ、二十七年七月二十五日、即チ豐島ノ海戰ノ日ヲ以テ戰時ノ始

第二篇 第一章 戰時ノ初期ニ關スル件

期ト定メラレタルモ、畢竟同一ノ趣意ニ依リタルモノナリ、然ルニ今回ノ戰役ニ於テハ、戰鬪行爲即チ兩國ノ兵力ヲ以テスル衝突ハ、三十七年二月八日午後五時仁川沖ニ於ル露艦コレーツ號ト、瓜生艦隊トノ間ニ於テ始テ開カレタルニ拘ラス、特別ノ事情アリタル爲メ、前例ヲ踏襲スルコト能ハザリキ、特別ノ事情トハ我カ艦隊ニ於テ三十七年二月六日午前十時ヨリ、露國義勇艦隊所屬船舶等ニ對シテ、交戰權ノ一手段タル拿捕ヲ行ヒタルコト、及ヒ二月八日午前ニ於テ、小村外務大臣カ日露兩國間ノ系爭事件ノ平和的解決ニ關スルラシスダウン候ノ提言ニ就テ、本邦駐英英國公使ト會談スルニ當リテ、時局既ニ實際上戰爭狀態ノ域ニ到達シタル今日トナリテハ、平和的解決ニ關スル何等提言ヲ容ル、ハ、帝國政府ノ全然不可能トスル所ナル旨ヲ斷言シタルトノ二點是ナリ、小村外務大臣カ右ノ斷言ヲ爲シタルハ、蓋露國義勇艦隊所屬船舶ハ、其ノ性質上平時ヨリ露國海軍ニ編入セラレ居ルモノナルヲ以テ、之ニ對シテ交戰權ヲ行使スルハ、即チ純然タル戰鬪行爲ナリトノ所見ニ基キタルモノナラン、

上述ノ如ク兵力衝突ノ時期ヲ以テ、戰時ノ始期トスルコト能ハサルノ事情アリタルニ因リ、山本海軍大臣ハ、曩ニ米西戰爭ノ際ニ於テ米國カ其ノ最後通牒ヲ發シタル日ニ遡リテ、戰時ノ始期ヲ定メタル事例ニ鑑ミ、三十七年二月六日、即チ帝國政府ヨリ露國政府ニ對シ外交斷絶ノ通知ヲ發シタル日ヲ以テ、戰時ノ始期ト爲スヲ穩當ナリト認メ、三十七年二月十八日左ノ案ヲ具シ、關係大臣ニ協議シ、其ノ贊同ヲ得テ之ヲ閣議ニ提出シタリ、

官房機密第四二五號ノ二

戰時平時區分ノ件

今回露國ト戰端ヲ開キタルニ付テハ我カ國カ戰時ノ狀態ニ移リタル時機ヲ明ニスルヲ必要ト認ムルヲ以テ本月六日即チ露國政府ニ對シ日露兩國ノ外交斷絶シタルヲ以テ我カ國ハ自由

動ヲ執ルヘキ旨ヲ宣告シタル日ヨリ戰時ト定メラレ度右ハ事重大ナルヲ以テ茲ニ閣議ヲ請フ

明治三十七年二月十八日

- | | | | | | |
|------|----|---|---|---|----|
| 陸軍大臣 | 寺 | 内 | 正 | 教 | |
| 外務大臣 | 男爵 | 小 | 村 | 壽 | 太郎 |
| 海軍大臣 | 男爵 | 山 | 本 | 權 | 兵衛 |

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

閣議ニ於テハ右請議ヲ可決シ、同年二月二十四日内閣批第五號ヲ以テ、戰時平時區分ノ件ハ請議ノ通りナル旨、桂内閣總理大臣ヨリ指令アリタリ、依テ山本海軍大臣ハ二月二十六日左ノ通り部内ニ通達セリ、

官房第六九二號

戰時平時區分ノ件ハ本年二月六日ヨリ戰時ト定ムルコトニ閣議決定候條此旨心得ヘシ

明治三十七年二月二十六日

- | | | | | | |
|------|----|---|---|---|----|
| 海軍大臣 | 男爵 | 山 | 本 | 權 | 兵衛 |
|------|----|---|---|---|----|

本件ハ部内ニ對シテハ、給與及ヒ恩給年限ノ起算等ニ關係アルノミナラス、亦二月六日及ヒ七日ニ於テ行ハレタル敵船拿捕ニ關スル帝國政府ノ態度ヲ示シタルモノナリ、

第二章 清韓兩國ニ於ル戰域ニ關スル件

日露兩國ノ關係愈、切迫スルヤ、山本海軍大臣ハ明治三十七年一月三十一日ヲ以テ、當時仁川ニ在リタル警備艦千代田艦長海軍大佐村上格一ニ對シテ、日露談判ノ模様ト其ノ心得方トヲ訓示スルニ當リテ、韓國沿岸ニ於テハ他ノ列國トノ關係ヲ惹起セサル限リハ、國際公法上ノ例規ヲ重視スルヲ要セサル旨、特ニ注意ヲ加ヘタリ、

第二篇 第二章 清韓兩國ニ於ル戰域ニ關スル件